ラリグラス・ジャパン News Letter

#13
2026
4月号

浄土宗南海教区での講演の様子

トリベニさん

シャクシさん

ムスカンさん

春風が心地よく感じられる季節になりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。いつも温かなご支援をいただき、誠にありがとうございます。

２０２４年６月に続き、２０２５年１０月、ＲＦ代表・トリベニさんと人身売買被害サバイバー２名をお招きし、東京と香川県で講演会を開催しました。

東京講演秋葉原会場では、会員や寄付者の皆さまはじめ、代表・長谷川が出演したＹｏｕＴｕｂｅチャンネル「街録ｃｈ～あなたの人生、教えてください～」の視聴をきっかけに、人身売買問題に関心を持ってくださった方々がご参加くださいました。また、東京福祉大学大学院において、留学生を含む約１００名を対象に講義を行いました。

香川県では、ＲＩＴＡ学園高等学校での講義と、浄土宗南海教区の僧侶の皆さまに向けて講演を行いました。

生い立ちからＲＦにたどり着くまでの道のりを、初めて人前で話してくれたサバイバーの女の子たち。熱心に耳を傾けてくださった皆さまの存在は、彼女たちのこれからに大きな支えとなるに違いありません。

今回の招聘事業は、２０２４年６月の受け入れにもご協力いただいたまんのう町・西念寺様を中心とした有志の皆様がＲＦメンバー３名の往復航空券はじめ香川県での滞在をご支援くださったことで実現しました。この場をお借りし、重ねてお礼を申し上げます。

特定非営利活動法人　ラリグラス・ジャパン
〒108-0072 東京都港区白金3-10-21　TEL&FAX 03-3446-2193
E-mail：info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

マイティ・ネパール

「人身取引撲滅デー」のキャンペーン

「ジェンダーに基づく暴力に反対する１６日間の行動」で行った街頭劇

「ハムロ・サハス」プロジェクトのセッションの様子。スタッフいわく、「とても勉強になった」とのこと

2025年9月、ネパール政府がサイバー犯罪対策を名分にSNS通信を遮断したことをきっかけにカトマンズで起こった「ネパールZ世代抗議デモ」。暴力を用いたことにより、死者76人、負傷者2300人以上に上り、市民生活は大きく混乱。マイティの活動も影響を受けることになったが、こうした混乱時にこそ必要とされる人身取引対策への取り組みを止めることはなかった。

9月5日の「人身取引撲滅デー」を記念し、マイティ本部と各地のトランジットホームが、学生向け、公共交通機関運転手向けに人身取引防止オリエンテーションを実施。地方当局との意見交換や街頭劇、公共スペースでのパンフレット配布などを行った。

こうした地道な活動の結実は数字に表れている。例えば、2025年8月17日から9月16日の1ヵ月間で、性産業で働かされていたり、国境を越えようとしていた294名を救出・保護した。うち102名が18歳未満、192名が18歳以上であった。

11月7日、国連女性機関「ハムロ・サハス」プロジェクトのもと、ウェルビーイング（＝心身の健康や社会的な充足感が満たされた状態）に焦点を当てたセッションを開催した。心のケアこそが他者へのケアの第一歩であるとして、マイティのスタッフが、自身のメンタルヘルスを育み、思いやりのある職場環境を構築するためのノウハウを共有した。また、11月13日には、ジャナクプルで「ジェンダーに基づく暴力、花嫁持参金、児童婚に抗うアートコンペティション」を開催。年齢、性別、民族の異なる20名の参加者が、アートを通じて自らの思考と感情を表現した。ジャナクプル出身の10名はミティラ芸術の伝統的美を、バラ出身の10名はジェンダーに基づく暴力・不平等をテーマとした作品を披露。芸術を通じて啓発を図り、社会全体で問題への取り組みの重要性を訴えた。

11月18日、マハラージグンジ国立警察アカデミー第7期生27名が、研修のためマイティ本部を訪問。人身取引・性的暴力・ジェンダーに基づく虐待の被害者救出手順、女性および児童を巻き込んだ犯罪の捜査手法、被害者の社会復帰プロセスについて学んだ。

マイティのスタッフは、人身取引の実態や法的枠組み、サバイバーの回復における心理社会的支援の重要性について意見交換の場を提供。アヌラダさんは、国内人身取引の増加傾向を指摘し、女性と少女を守るため、警察当局がより強力かつ積極的な対策を講じるよう促した。

12月、「ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間の行動」として、ネパール全土で大規模な啓発・提言活動を継続した。人身取引、ジェンダーに基づく暴力、児童婚、安全な出稼ぎなどを課題とし、学校プログラム、地域説明会、街頭劇、家庭訪問、地区レベルのキャンペーン、ワークショップを行った。

12月１日、世界エイズデーに際し、マイティ本部のスタッフがホスピスを訪問し、２８名の女性たちとダンスや食事の時間を共有した。女性たちは、HIV／エイズ、結核、肝炎、トラウマや虐待による精神疾患を抱えている。適切なケアと支援、尊厳を保ちながら生活できるよう、こうした交流を通じて女性たちの心身のコンディションの把握に努めていきたいとのことだ。

▲「ジェンダーに基づく暴力、花嫁持参金、児童婚に抗うアートコンペティション」の様子。

絵に想いを込める参加者たち▼

研修に訪れたマハラージグンジ国立警察アカデミー第７期生２７名

招聘事業のご報告

レスキュー・ファンデーション（以下RF）代表トリベニさんと人身売買被害サバイバーの女性2名（ムスカンさん、シャクシさん）をお招きし、10月12日（日）、ふれあい貸し会議室秋葉原にて、講演会「人身売買されるネパール・インドの少女たち～現地NGO代表とサバイバーが語る魂の傷、そして回復の試み」を開催した。会場には50名の方にお越しいただき、3名の方がZOOM視聴形式でご参加下さった。また、TBSのテレビ取材が入った。先日放送された報道特集の拡大版として、同局「解放区」という番組での放送が予定されている。

10月16日（木）は、午前中に香川県丸亀市にて浄土宗南海教区の僧侶の皆さまに向けて講演を行い、午後から香川県仲多度郡のRITA学園高等学校で高校生を対象に講義を行い、その後、生徒さんたちとパラリンピック正式種目ボッチャで盛り上がった。

10月18日（土）は、東京福祉大学大学院にて、留学生を含む約100名の学生を対象に講義を行った。

トリベニさんが人身売買問題の実情やRFの取り組みについてレクチャーし、ムスカンさんとシャクシさんがこれまでの自身の体験を話してくれた。東京講演では、シャクシさんがスピーチの途中で声を詰まらせることも。過酷な運命を背負わされながらも、必死に生き抜いてきた彼女たちが紡ぐ言葉が胸に迫り、涙を滲ませる人は少なくなかった。

前回同様、招聘事業の目的は、人身売買問題について1人でも多くの方に知っていただくこと、サバイバーの女性たちをモチベートすることにあった。その目的は今回も果たすことができたと思っている。

帰国の途につくため、羽田空港で搭乗を待つトリベニさんから、次のようなメッセージが届いた。

「数えきれないほどの感謝を込めて。月まで行って戻ってくるほど愛しています。日本での温かいおもてなしに心より感謝申し上げます。ラリグラスの関係者の皆さまに深く感謝しています。皆さまはRFの女の子たちにとって天使のような存在です。女の子たちは生涯、日本での素晴らしい旅と皆さまのことを決して忘れないでしょう。この感動を言葉で表すことはできません。たくさんの愛と祝福を込めて」

▲ 東京講演の様子

▼ 来日したRFのメンバー

ネパール障がい者女性協会（NDWS）

見えない障壁をなくす―障がい者と選挙参加

選挙権と被選挙権は、障がいの有無にかかわらず憲法で保障された基本的権利である。日本でも障がい者が選挙に参加できるよう、投票所のバリアフリー化や投票所入場券の音声読み上げコードの導入など、少しずつ取り組みが進められている。

一方、今年2月に行われた衆院選は急な選挙であったため、点字版広報の準備が投票日直前になったり、積雪で車いす利用者が投票所に行きづらかったりと、さまざまな課題がニュースで取り上げられた。

昨年9月、ネパール政府が一部ソーシャルメディアへのアクセスを停止したことに対する抗議から、若者を中心とする大規模デモが発生した。この動きは日本のニュースでも大きく報じられた。措置の撤回後も政府の汚職問題への批判や抗議活動は続き、デモ参加者と治安部隊の衝突を経て前首相が辞任し、現在は暫定政権となっている。今年3月5日に予定されている総選挙を前に、当事者団体や障がい者支援団体が障がい者の投票を促進する研修実施や資料配布、選挙管理委員会との連携体制の構築を進めている。

NDWSも対象地域の障がいのある有権者の投票を支援するため、女性の自立支援などを行うウジャロ財団と協力し、障がい当事者やその家族を対象とした選挙ワークショップを開催した。当日は、NDWS近隣に住む障がいのある女性やその家族を中心に19名が参加した。ネパールでは「障がいがあるため選挙には参加できない」と考える人も少なくない。さらに、現地メディアによれば政党が63も存在するにもかかわらず、公約をわかりやすく伝えるツールがなかったり、投票所のバリアフリー化が進んでいなかったりして、障がい者の選挙参加を妨げる要因となっている。

そこでワークショップでは、投票権の説明や各政党の公約の入手方法を紹介したほか、模擬投票所を設けて参加者に投票を体験してもらうなど、さまざまな活動を通じて選挙参加を促した。参加者からは「自分が投票できると思っておらず、これまで選挙に行ったことがなかった。今度の選挙では自分が良いと思う政党に投票したい」といった声も寄せられた。

模擬投票所で投票を体験

Information

お菓子プレゼント

マイティの女性や子どもたち、NDWSの子どもたちは、貧困家庭の出身者が多く、お菓子を食べる機会が滅多にありません。そこで年２回のお楽しみ企画として、３０年近くにわたってお菓子の詰め合わせプレゼントを続けてまいりました。今年４月も、当会代表長谷川の現地訪問に向けて、一口１０００円のご寄付を募集しています。

EKATRAプロジェクト

「EKATRA」は、RFで行っている雇用創出とエンパワーメントを目的とした各種トレーニングへの支援プロジェクトです。職業訓練で習得した技術のスキルが高く、リーダーの資質を持つ女の子を「リーダー」または「トレーナー」として育成し、彼女たちがシェルターの女の子たちを指導するというものです。給与が支払われ、自立を促す一助になるだけでなく、その活躍ぶりに感化された女の子たちが自分たちもリーダーやトレーナーとなることを目標としてトレーニングに励むという好循環が生まれています。さらには大学進学や雇用にも確実につながっています。「EKATRA」への支援は随時受け付けています。応援をどうぞよろしくお願いいたします。

ご支援の振込先はこちら！

郵便振替
口座番号：００１００-5-７１３６６１
加入者名：トクヒ）ラリグラス　ジャパン
※銀行振込の場合
銀行名：ゆうちょ銀行　支店名：０一九（ゼロイチキュ）店（019）
口座番号：当座　０７１３６６１

銀行振込
銀行名：三菱 UFJ 銀行
支店名：麻布支店（店番：570）
口座番号：普通預金　０１５８０５４
振込先名義：トクテイヒエイリカツドウホウジンラリグラスジャパン

TBS報道特集のご案内

2025年11月29日に放送された「報道特集」（JNN／TBSテレビ）にて、レスキュー・ファンデーションとラリグラス・ジャパンの活動が取り上げられました。
現在、YouTubeでご覧いただけます。見逃した方、もう一度観たい方は下記のURLにアクセスしてください。
https://qr.paps.jp/4V3HN

こちらの
二次元コードから
YouTubeを
ご覧いただけます

委託販売にご協力くださる方を募集しています

ラリグラス・ジャパンでは、マイティのホスピスで暮らす女性たちや RF の女性たちが作ったフェアトレード商品およびネパール雑貨を販売していただける方を募集しています。販売にご協力くださる方は、ぜひご連絡ください。

●委託販売の流れ
委託販売のお問いあわせ → 販売見込みに応じた商品の送付（当会より）→ 販売 → 売上のご報告と入金 → 不良品／売れ残り商品のご返送

●価格や売上金について
販売価格は、当会のイベント時の価格でお願いしています（価格がお客様層と合わない場合等はご相談ください）
送品・返品にかかる送料、ご入金の際にかかる手数料は当会が負担いたしますが、売り上げは全額当会にご入金願います。
またご希望の方には、当会のパンフレット、ミニパネルを同梱させていただきます。

他にもご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。皆さまのご協力を、心よりお待ちしています。